

目指す学校像	みんなでつくる みんなの学校 ~児童・教職員・保護者・地域のすべての人の笑顔のために~
--------	---

重点目標	1 学びの自律化に向けた一人1台端末の活用と、探究的な学習の充実 2 安心・安全な学習環境の礎となる人間関係の構築と施設設備・予算の適切な管理 3 学校・家庭・地域が連携して進める魅力ある新和地区の創造 4 「学びのポイント」を意識した授業展開による学びの自律化の促進
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価		学 校 自 己 評 価		学 校 自 己 評 価		学 校 自 己 評 価	
年 度 目 標		年 度 目 標		年 度 目 標		年 度 目 標	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<現状> ○全国学力・学習状況調査や市学習状況調査では、国語・算数・理科ともに全国や市と比較するとやや下回っている。 ○日頃の学習の様子から、落ち着いて学習に取り組む児童が多い。 <課題> ○国語：問題文に慣れない言葉が出てきたり、長文になったりすると、問題を解こうとする意欲が低下してしまう傾向が見られる。 ○算数：思考的な問題では、複数の資料を合わせて問題を読み取り、答えを導くことや式を言葉に直し、表現することに課題がある。	・学びの自律化に向けた一人1台端末の活用 ・アクティブ・ラーニング型の授業を推進し、探究的な学習の充実	①タブレット端末を活用した授業実践に係る研修会を学期に1回以上実施する。 ②全児童にスタディサプリ・ドリルパーク等を活用して宿題を配信する。 ③朝の時間に、タブレットを活用した習熟学習を行う。	①教職員学校評価項目12「ICTを活用した授業実践」3.4P/4P以上となったか。 ②児童がスタディサプリまたはドリルパークを活用している割合95%以上となったか。	①の結果は3.5/4Pであり、目標を上回った。少しずつ、教職員のICTを活用する意識が高まった。 ②の結果はドリルパークやスタディサプリなども積極的に活用し、個別最適な学びを実践できた。活用率は100%である。	A	○次年度は、スクールダッシュボードを活用しながら、さらなるタブレット活用率の向上を目指していく。 ○引き続き、スタディサプリやドリルパークを活用しながら個別最適な学びを実践する。
2	<現状> ○令和4年度の児童アンケート「クラスや学校での生活を楽しく過ごしています。」では、95%の児童が肯定的に回答している。 ○今年度より、校舎のトイレや体育館のリフレッシュ工事が予定されており、施設の一部が使えない状況となる。 <課題> ○心と生活のアンケートより、自己信頼や他者信頼が低い児童が一定数いるので、さらによりよい人間関係を構築する必要がある。 ○リフレッシュ工事に伴い、騒音の問題や施設利用について制限がかかるので、普通教室の移動などの配慮が必要である。	・児童が安心して学べる学習環境や人間関係の構築 ・施設設備・予算の適切な管理	①「いのちの支え合い」を学ぶ授業や道徳教育を中心に生命の尊さ、思いやりの心、規範意識等をはぐくむ。 ②「心を潤す4つの言葉」の推進、人間関係プログラムを実施により、コミュニケーションスキルを向上させる。	①児童アンケート評価項目2「クラスや学校での生活を楽しく過ごしています。」肯定的な回答の割合95%以上となったか。 ②児童アンケート評価項目3「いじめがなく、友達と仲良く生活しています。」肯定的な回答の割合90%以上となったか。	①の結果は肯定的な回答の割合が95%であった。児童の学校生活の様子を見てみると、元気に楽しく過ごしている様子が伺える。 ②の結果は、肯定的な回答の割合が93%であった。いじめを認知した後は、迅速丁寧に対応し、大きなトラブルには発展していない。	B	○特別活動や異年齢集団の集会活動を充実させ、小規模校の機動力を生かしながら、児童相互のあたたかな人間関係をはぐくんでいく。 ○今年度策定された「心を元気にする4つの言葉」を意識しながら、教育活動を実践する。
3	<現状> ○令和4年度に文部科学省より「学校・家庭・地域で取り組む食育」について表彰を受けた。 ○青少年育成会、自治会、社会福祉協議会等、本校を取り巻く地域の団体が緊密に連携し、児童を見守っている。 <課題> ○学校運営協議会で「安心・安全な新和地区を創るために」をテーマに3か年の活動スパンで目標を設定したが、意識・行動をどのように継続させていくかが課題である。 ○学校の教育活動をホームページや学校安心メールで紹介しているが、さらなる周知が必要である。	・学校運営協議会を中心とした学校経営の計画・実施 ・保護者・地域との円滑な連携	①学校運営協議会において、魅力ある学校づくりについて熟議し、学校運営に反映する。 ②ホームページを充実させたり、各種たよりを発行したりするなど、児童の教育活動の様子を発信・周知する。 ③学校・家庭・地域が連携して取り組む一斉下校を実施する。	①保護者学校評価項目10「学校・保護者・地域」肯定的な回答の割合が95%以上となったか。 ②学校運営協議会、SSN、PTAと地域団体と良好な関係を構築できたか。 ③学校・家庭・地域が連携して取り組む一斉下校が実施できたか。	①の結果は肯定的な回答の割合が98%であった。 ②学校を取り巻く諸団体と連携を図りながら、お互いに連絡、相談を行い、良好な関係を構築した。 ③入念な計画と適切な役割分担により学校家庭地域合同一斉下校を実施し、地域の歴史を理解し、顔の見える関係を築けた。	A	○引き続き、学校運営協議会の御意見や御要望に耳を傾けながら、御助言をいただき、学校経営に生かしていく。 ○「さいたまで一番安心で安全な新和地区を創るために」の2年目として「自分の命は自分で守ろう」とする取組を計画する。
4	<現状> ○研修主任やエバンジェリストを中心に、教育活動における効果的なICTの活用方法について研修を重ねてきた。 ○日課を工夫したり、会議や研修の持ち方を精選したりしながら教員が教材研究に充てる時間を確保してきた。 <課題> ○授業におけるICTの活用率について、改善の余地がある。 ○「学びのポイント」を意識した授業の研究について取り組み始めたばかりなので、さらなる実践経験が必要である。(児童が主体的に学ぶようにするためにはどうしたらよいか等)	・「学びのポイント」を意識した授業展開の実施	①「教える」から「学ぶ」授業に転換できるように、学びのポイントを意識した学習過程を展開する。 ②市教委による指導訪問、学力向上カウンセリング訪問等を活用したり、校内研修を充実させたりして授業力の向上を図る。 ③高学年教科担任制を実施し、教材研究を充実させ、専門性を高める。	①保護者学校評価項目3「わかりやすい授業」肯定的な回答の割合95%以上となったか。 ②児童アンケート評価項目1「基礎的な学力を身に付けています。」肯定的な回答の割合が95%以上となったか。 ③すべての教員が「学びのポイント」を意識した授業の公開をできたか。	①は、肯定的な回答の割合が98%であり、目標を上回った。教職員がタブレットを活用し、研修等を通して、授業力の向上が図られた。 ②は、肯定的な回答の割合が92%であり、目標をやや下回った。 ③は、すべての教員が自主研修や指導訪問(教育委員会主催)で「学びのポイント」を意識した授業の公開を行った。児童が自立した学びを実践できるように、教員は児童の伴走者としての意識が高まった。	B	○今年度に引き続き、各教員が授業公開を行い、授業力を高める。 ○ICTを活用し各教員が自身の授業の取組をクラウドにアップロードし、自主的な研修を推進する。 ○ICTを活用したり、日課を工夫したりしながら教員の働き方改革をさらに推進し、教材研究に充てる時間や児童と関わる時間を確保する。

学校運営協議会による評価	実施日令和6年2月15日
学校運営協議会からの意見・要望・評価等	・学校は教育活動の充実を図り、努力していることが表れていることに評価したい。 ・学校評価アンケートは回答しやすいように学校側で具体的な対応策を検討されたい。また、アンケートの回収率を上げるために今後も努力されたい。 ・小中一貫教育で9年間を見通したカリキュラムを児童が意識できるように工夫してほしい。 ・タブレットの活用率が上がっている。個別最適な学びがさらに広がることを期待したい。

